

## 令和 7 年度 第 1 回 飯山市総合教育会議 議事録

1 開催日時 令和 7 年(2025 年) 9 月 1 日(月) 午後 3 時 00 分 ～ 午後 4 時 30 分

2 場 所 飯山市役所 31 号会議室

3 出席者	飯山市長	江沢岸生
	教育長	山田 晃
	教育長職務代理	吉越 邦榮
	教育委員	平野 弘蔵
	教育委員	中村 香織
	教育委員	渡邊 奈奈恵
	教育部長	大口 なおみ
	文化振興部長	島崎 紀明
	子ども育成課長	丸山 真央
	子ども育成課長補佐兼学校教育係長	倉科 睦雄

### 4 あいさつ

**江沢市長：**こんにちは。本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。先日、城北中学校区の統合小学校の新校舎が完成し、今日から新たな校舎での教育が始まっています。

本日協議を始める第 3 次教育大綱は、飯山市教育の根幹をなすもので極めて重要な検討であると考えています。少子高齢化やグローバル化などの教育環境は急速に変化しており、不登校児童生徒の増加も課題です。また市内から市外への進学志向も高まっている課題もあります。子どもたち一人ひとりの力を最大限に伸ばすことができるよう、市と教育委員会が連携し、教育現場や市民の皆さんの意見を取り入れることが重要であると考えています。

教育の内容については市長が介入するべきないと考えていますが、行政のあり方として、大綱策定にあたり広く市民の意見を如何にお聞きするかが重要であると考えています。本日の議論が未来を担う子どもたちの教育の方向性を示し、地域に寄与するものになるよう願っております。

**山田教育長：**本日から城北小学校の新校舎での生活が始まりました。児童の登校練習や、地域の方への内覧会も行い、一人一人の笑顔が多くみられ印象に残っているところです。

本日の検討にあたっては、教育委員の皆さんに広い視野から、忌憚のないご意見をいただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

## 5 議題

### 1) 飯山市第3次教育大綱の策定について

#### 【教育委員 A】

60代で会社員をやめた人や会社経営する人などと話していると、最近の若者が先輩から学ぶという姿勢や意欲がある姿勢が見られず、我慢する力が弱くなっていると感じるという。60代の自身として仕事を教えたい気持ちはあるが、彼らに求められているのかわからず対応に困っているとのこと。大綱の策定にあたり、私自身も同世代として、社会で求められている人材について幅広く意見を聞けるといいと思う。

#### 【教育委員 B】

資料を読んで、課題に対し何ができるか、何をすればよいかがすぐに答えを見いだせない自分がいた。若者はAIに自分の相談をする時代。否定をしないものに相談することがよいのだろうか、という思いもある。褒められて育つだけでなく、挫折やつまずきも経験し乗り越えることで、レベルが上がることもあると思う。集団生活で自分にとって不都合なことを乗り越える力をつけられない児童生徒の増加により、不登校が増える側面があるのではないかと考えており、難しい課題であると感じている。

#### 【江沢市長】

幅広く意見を聞く手法の1つとして、「あなたも当たるかもしれない、くじ引き民主主義の時代」という本がある。無作為抽出した人を対象に、意見を聞かせてほしいという案内を1000通出すと、50人ぐらいが参加してくれる、それらの方々に説明して、自由意見を聞いて、行政が意見を整理したうえで再度意見交換すると、ある程度いくつかの意見に絞られてくるとのこと。教育は色々な人たちに関係するものなので、こうした手法で関心を持たない人の意見を聞くこともできるので、よいのではないかと思います。

### 2) 第3次教育大綱の構成案について

### 3) 飯山市の教育行政の方向性について（意見交換）

#### 【教育委員 A】

構成案についてはこのよう形でよいと思う。目指すところや子供の姿の項目もあるが、第2次教育大綱にある「自己教育力」を身につけることが一番大切で、大人になっても役立つ力だと思う。生成AIが人間形成に与える影響も大きく、自分にとって都合の良い回答やSNSで同じ考えだけが集まる状況もありますが、そうした弊害について小中学校で学んでいくことが必要だと思う。教育環境もICT化が進んでいるが、大人が子どもの学びの意欲をどう育むかが大切。子育ては誰も教えてくれないので、親が学ぶ機会、家庭教育も大切だと思う。

#### 【教育委員 B】

城北小学校のアフタースクールに関わらせてもらっている。そこで家庭学習に取り組む姿を見れば、当たり前のように学習に取り組む姿があり、先生たちも子どもたちのやる気が出るよう、採点を工夫したりしている姿が見られる。それが学力向上につながっていない原因を考えアシストできるとよいのではないかと思います。現場の子どもたちの姿を見ると、決して

悲観するものではない。教育の方向性を定める大綱として何がよいかはしっかり考えていく必要がある。

大綱案を見ると、これまでよりもボリュームが絞られていてよいと思う。あれもこれもよりは、焦点化して行うことは賛成。それに何を選ぶか、子ども自身が自分がどうなりたいか、ということをベースにすることが大切だと思う。

**【教育委員 C】**

資料3の第2章に、学校長の意見や子供の意識調査の把握というのがあるが、だいぶ時間がかかる部分になると思うが、どのタイミングで行う予定か。

**【大口教育部長 回答】**

校長の意見や学力調査でのアンケート回答は既に聞き取りが終わっている。子どもアンケートは、タブレット端末を使って秋に取り組む予定。市民意識調査は市長から提案もあったが、委員の意見を聞きながら今後検討したい。

**【江沢市長】**

部活動の地域移行やアフタースクールの市民先生に「集落支援員」の制度を使ったらどうかかねてから教育委員会に提案しているところ。担当課で仕組みを調べて検討してほしい。

大綱をコンパクトなものに、というのは大賛成。市の計画はボリュームが多くて、どこに何が書いてあるか職員もわからない。たくさんのボリュームのものを作るよりも、一般的に新年度の予算に関するものだけ先にまとめて、その後のものは後日追加する、統計データは必要なものをその都度追加するなど、工程を工夫してこれまでの流れにとらわれなくてもよいと思う。

教育大綱を最後にまとめるのは教育委員会ということになると思うが、例えば構成として「市長メッセージ」はなくてもいい。必要なのは教育長メッセージや教育委員会メッセージを出すことが大切だと思う。コンパクトにして、資料集は欲しい人にあげればいいので、10ページもあれば十分だと思う。統計部分はそんなに載せなくてよい。

**【教育委員 D】**

先日、教育委員の新任研修に参加した。講師の先生が言っていたのは、これまでと違って、今の時代は予測不能であるとのこと。世の中の変化に現状と課題が追いついていない、3年後はまた現状と課題が変わってくるので、現状と課題の分析に時間をかけるのは避けた方がよいというお話だった。

大綱案についても、市民の方に配布するのに、現状と課題すら変わる場合もあるので、これから目指す方向の部分は外せないが、課題分析部分は少なくしてもよいと思う。

**4. その他（国民スポーツ大会、文化財関係）**

**【大口教育部長】**

- ・2028 国民スポーツ大会が長野県を会場に行われること、飯山市ではスキーとカヌースプリント競技の会場になることが正式に決定したことなどについて説明。

**【島崎文化振興部長】**

- ・瑞穂地区の神戸のイチョウの一部が倒壊した件で、復旧対応について県と協議をしている旨説明。
- ・瑞穂地区小菅の重要文化的景観の指定から10年が経過し活用計画の見直しをしていること、参道脇の遺構の文化的価値の見極めのための調査が行われていることなどについて説明。

**【倉科学校教育係長】**

- ・学校業務改善指針の内容について説明。

**【教育委員 A】**

部活動の地域移行により、部活動を行う生徒が増えることが予想され、放課後の居場所づくりが課題になってくるのではないかと感じている。もう一点は、城北小中学校のスクールバスの時刻表を先生が行っているとのことで、学校改善指針の業務仕分の対象になってくるのではないかと考えている。

**【山田教育長 回答】**

居場所づくりについては、アフタースクールも受皿にできないか検討していきたい。2点目のダイヤについては、基本的には教育委員会事務局で行っている。先生にお願いしているのは、時間割によってどのダイヤになるかなどの作業であり、毎日発生する業務ではないと考えている。基本的な運行は市教委で行っている。

**【山田教育長】**

市長からくじ引き民主主義の話があった。本も読んだが、一般市民の皆さんが、どれだけの皆さんが興味を持ってみってくれるかは疑問に思っているが、その方は参画してくれることにはつながる効果があると思う。結論は出なくとも、テーマを決めて話し合ってもらうことでその内容を市民の皆さんに還元していくことを広げていくことは効果があると思った。ただ半年間でこれができるかどうかは課題であると感じた。